

国際化と多文化共生の推進に向けて

島根県知事

溝口 善兵衛



島根県はこれまで、日本海を挟んで向かい合っている北東アジア地域の自治体と、文化、学術などさまざまな交流を積極的に進めて参りました。最近では、浜田港を拠点にした石州瓦や中古車などのロシアへの輸出が盛んになるなど、経済交流でも大きな進展が見られます。

また、この北東アジア地域の政治、経済、社会、民族、文化、言語などを総合的に学ぶ拠点として、島根県立大学に「北東アジア学科」を設置し、今後、大きく発展することが期待される北東アジア地域において、多方面で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

さらに県内には、出雲大社や松江城など、歴史的な文化資源が数多くあり、こうした文化資源を、国外に向け広く情報発信し、島根のよさをアピールしていくことも重要であると考えています。

昨年は石見銀山遺跡が世界遺産に登録され、国外からも多くの方々がお越しになりました。この石見銀山遺跡は、森林資源が適切に管理され、環境負荷の少ない鉱山経営が行われた結果、自然との共生を果たし、銀鉱山跡、街道、まち並み、温泉などが日常の暮らしや美しい自然と調和した、島根らしい穏やかな佇まいを見せております。こうした石見銀山遺跡の価値は、観光にお越しになった方々をはじめ、国内外の多くの方々にも広く理解されるようになりました。

一方、県内にお住みになる外国人の方々も年々増え、現在では一〇年前の一・六倍の六〇〇〇人強となりました。最近では、県内企業で働き、ご家族でお住まいの方々も珍しくありません。当然、病院や学校、防災など、地域社会の一員としてさまざまな場面で関わりが生じてきますが、多くの方々がやはり最初に「言葉の壁」に困っておられます。このため島根県では、相談体制づくりや地域の日本語教室への支援だけでなく、通訳・翻訳の県民ボランティア派遣にも力を入れ、県内にお住まいの外国人の方々のサポートに努めています。

島根県は、国際社会での相互理解を深め、国際社会の中で活動できる人材の育成とともに、国籍などの異なる人々が互いの文化や価値観を理解しあい、共に地域社会の一員として安心して暮らすことのできる、多文化が共生する地域づくりに、今後とも積極的に取り組んで参ります。